

「大湊小の防災教育」

平成 24 年度 高知県実践的防災教育推進事業 拠点校 南国市立大湊小学校

I 学校における背景、問題意識

南国市立大湊小学校は、太平洋を望む南国市の海岸から約 1 km の場所に位置し、校舎は 1 階建部分と 2 階建部分しかなく、海拔も 3.7m の立地条件なので、津波が起これば甚大な被害が予想される。最大級の南海トラフ地震が発生した場合、県の想定では、学校で最大震度 7、津波浸水深 5～10m、30 cm の津波到達時間 30～40 分と厳しい数字が突きつけられている。南に太平洋、東西は野菜栽培のビニールハウスや水田を中心とした平野、北は高知龍馬空港の滑走路があり、周辺に高い建物や避難できる山はない。平成 24 年 3 月に 2 階校舎屋上への避難階段、屋上フェンスが設置されたが、この屋上は地面から 7.85m の高さであり、安心できる高さとは言い難い。そこで、平成 26 年 3 月に、本校と大湊保育所の間付近となる場所に、双方からの避難場所となる、高さ 11.43m の避難タワーが建設されることになっている。このタワーを含め、校区の 8 か所に避難タワーが建設される。

地域の方々もハード面はもとより、大湊防災連合会を中心に、地域の安全対策の検討や各自主防災会による避難訓練など、より安全な取組を模索している。より早く、より安全に避難する体制を保育所や地域住民と一緒に整えて、どのような状況下でも「子どもたち自身で自らの命を守る力」を身に付けさせたい。

II 取組のポイント

- ◆保育所・小学校が連携し、子ども自身が主体的に安全を確保するための判断力や行動力を育成するための指導方法の研究開発を行う。
- ◆災害発生時に、「地域ぐるみで避難行動・救助活動・ボランティア活動」が

できるように、保育所・小学校・家庭・地域が連携した取組を進める。

- ◆公開授業、研究発表会、講演会を通して、実践的防災教育の普及や啓発活動を進める。
- ◆地震、津波等の地域の自然災害や歴史、防災体制についての学習を深める。
- ◆新想定に対応する学校防災マニュアル、学校防災教育計画等の見直しを図る。

III 取組の概要

1 大湊小の防災教育の目標

- ◎災害についての正しい知識を持たせる。
- ◎災害発生時に、自分の判断で適切な行動ができるようにする。
- みんなで協力して防災活動に取り組む力を育てる。
- 地域に関心を持ち、災害への備えの大切さを理解させる。

2 取組内容

(1) 先進的な取組から学ぶ

岩手県釜石市や宮城県岩沼市から講師を招聘し、東日本大震災当時の状況や具体的な取組を学ぶことで、教職員の防災教育に関する認識が深まった。

【防災教育学習会①】

講演「釜石市の『命』の教育」

講師：岩手県釜石市教育長 川崎一弘 氏

- ・「想定を信じるな」
- ・「最善を尽くせ」
- ・「率先避難者たれ」
- ※一人でも犠牲者が出たならば、奇跡とはいえない



【防災教育学習会②】

講演「地震・津波に対する危機管理」

講師：宮城県岩沼市立玉浦小学校
防災主幹教諭 柴田新二 氏



- ・震災時から復旧までの経過を通した取組
- ・保育所の取組や連携の大切さ
- ※「自分の命は自分で守れる」子どもを育てる

(2) 地震や津波、そして地域を学ぶ

①防災教育カリキュラムの作成

防災教育全体計画に基づき、各学年の防災教育年間指導計画を作成し、教育活動全体を通して「地震・津波を知る」「身を守る行動を学ぶ」「防災意識を高める」学習を実施した。実施後は、略案の形で指導法を残し、次年度以降も防災教育が継続できる仕組みを整えていった。

【実践例① 3年「社会」「総合的な学習の時間」地域の地図づくり】

自分たちの住むまちを詳しく知るために、まち探検を行った。地震・津波避難場所を確認し、危険箇所はないかメモをとりながら歩き、「ここで地震が起ると、どうしたらよいか」など、いろいろな時間や場所を想定して考えながら取り組んだ。危険な箇所は色で表したり、避難場所や避難タワーの写真を貼ったり、工夫しながら地図に表現し、発表を行った。

【実践例② 5年「総合的な学習の時間」防災マップ作成】

地区毎に4グループに分かれ、地域の方を招いてフィールドワークを行った。地区防災会の会長や事務局長、児童館館長など、地域をよく知る方に引率していただいた。危険箇所や防災関連施設を見ついたり、地域の方に助言していただきながら避難時にどの道を行けばよいかを考えたりして歩いた。

フィールドワークで調べたことを防災マップに表した。防災マップ作成には、地域の方とともに



に、高知工業高等専門学校の協力も得ながら取り組むことができた。

②関係機関と連携した防災出前授業

【防災出前授業①】

3・4年「地震・津波から身を守る」

講師：南国市危機管理課係長

山田恭輔 氏

地震の起こり方や南国市に予想される被害などを教わった。

【防災出前授業②】

5年「緊急地震速報について」・職員研修

講師：高知地方気象台 地震津波防災官
中平昭彦 氏



S波（主要動）の始まる前にP波（初期微動）をキャッチし、震源の位置や揺れの強さをいち早く予報する仕組みを手作りの道具を使って実演してくださった。

教職員は、平成25年3月から変更になる「大津波警報・津波警報・津波注意報」についても学習した。

(3) 身を守る行動を学ぶ

子どもたちに実践的な避難行動を身に付けさせるために、防災学習と関連付けながら、次の4つの視点を大切にしたい避難訓練を実施している。

- ・基礎基本を大切に（お・は・し・も・て（手すりを持って））
- ・あらゆる生活場面や時間帯に
- ・教員主導型から児童判断へ
- ・事前、事後の指導を大切に



【休み時間】



【始業前（児童判断）】

平成 24 年度
避難訓練年間計画

【避難訓練で重視しているポイント】

- 「避難しなさい」ではなく「揺れがおさまりました」の放送で動ける子どもに。
- 揺れが始まるまでの 7～8 秒の行動を大切に。
- みんなで命を守る体制に（上級生と下級生でのバディ等）。

期 日	生活場面	時間帯	学 年	内 容	備 考
4/24(火)	全校集会	集会終了時	全校	・新1年生を含む最初の避難訓練、体育館から避難階段へ ・避難の基本及び屋上での学年の集合場所等を確認	教員指導
6/29(金)	掃除中	掃除時間 13:40～	縦割り班	・各掃除場所から担当教員が指示、引率 ・各場所の退避場所等の確認 ・避難訓練カードにより事後指導	教員指導
6～7月	授業中	学級判断	各学年	・学級からの避難路の確認、避難階段の扉の開け方等、学年に応じた指導 ・避難訓練カードにより事後指導	教員指導
9/14(金)	授業中 保小合同	5校時 14:10～	保小合同	【保、小合同訓練】 ・緊急地震速報機を活用した保小合同避難訓練 ・ヘルメット着用 ・全児童の避難と同時に男性教員は保育所に向かう（屋上からハンドマイクで津波が来ているか確認し、男性教員へ指示を出す）	教員指導
10/4(木)	休み時間	2校時後 10:30～	全校	・運動場や図書室からの避難ルートは事前指導しておく ・避難訓練カードにより事後指導	教員指導 児童判断
11/1(木)	授業中	4校時 12:00～	全校	・通常の避難路が使えない場合を想定し、他の通路から避難 ・避難訓練カードにより事後指導	教員指導
11/23(金) 勤労感謝の日	家庭	自宅 8:30～	全児童 地域全体	＜午前＞ ○地域ぐるみ避難訓練（自主防災組織等と連携） 自宅から各避難場所へ 8:30～ 一斉避難訓練 終了後、児童は10:00までに登校 ＜午後＞ ○午後：防災教育参観日・講演会 13:30～14:15 5校時（5・6年は13:15からスタート） 14:30～14:50 児童引き渡し訓練 15:00～16:40 講演会「南海地震に備える」 ※防災グッズ展示（多目的室）	教職員は各場所に 分かれて参加
12/5(水)	始業前	始業前 8:10～	全校	・始業前(8:10)であり、教室、運動場、登校中等のそれぞれの場所からの避難。 ・教職員は指示を出さず、児童判断による避難 ・緊急連絡カードを持つ ・避難訓練カードにより事後指導	児童判断
2/1(金)	休み時間	昼休み 13:20～	全校	・教職員の担当場所を決め、児童の動きをチェック ・避難訓練カードにより事後指導	児童判断

(4) 連携を深める

①保護者との連携

ア) 児童引き渡し訓練

参観日を利用して、家庭から直接迎えに来ていただく引き渡し訓練を平成 24 年度から実施している。災害時の児童引き渡しについての基本事項を、保護者に理解していただくことがねらいである。ただし、津波警報の発表中は保護者、児童ともに警報解除になるまで学校待機としている。



イ) わが家の防災学習（家庭での話し合い）

家庭の防災意識の向上をねらい『わが家の地震・津波対策』について～お子さんと話し合ってください～と題して、各家庭に文書を配布した。「地震時に混乱しないように、対応について家族で話し合う」ことをねらいとして、以下の6項目について話し合っていたき、話し合った内容を高学年は児童が記入し、低学年は保護者に記入していただくこととした。平成 24 年度は約 90%の回答率であった。

[話し合い 6 項目]

- ・家以外でよく遊んでいる場所からどこに避難しますか？
- ・登下校中に地震が起きたら、どこに避難しますか？
- ・避難した後、家族で集合する場所はどこですか？
- ・避難した後、家族との連絡をどのようにしますか？
- ・地震、津波に対して何か備えをしていますか？
- ・その他、話し合ったことがあれば書きましょう。

「こうして、我が子のことを考えながら書くと、胸がしめつけられる」という保護者からの感想もあり、家族で話し合

い、話し合った内容を記録することで、家庭の防災意識が高まっていることがうかがえた。今後も、通学路の確認や避難タワー等に対応した取組を、保護者と連携しながら進めていく必要があると考えている。

ウ) 非常持ち出し袋の中身の点検

「家庭で話し合って防災に取り組むきっかけに」とのねらいから、6年生は昨年度に「非常持ち出し袋」を1人1つ準備した。今年度は、自分の持ち出し袋を学校に持ち寄り、その中身を授業で点検し合うことを通して、もしもの時の備えについて改めて考えた。



ペットボトルに入った水、乾パン、ライト、軍手、マスク、お金等、中身について紹介し合った。「けがをした時や体を洗う時に使うタオル」や「親戚の電話番号を書いた連絡カード」といったアイデアを報告し合ったり、水が飲める期限を確認したりと、被災後の状況をイメージして備える必要性を強く感じることで学習となった。友達の中身と見比べ、「食べ物をもっと必要。」「連絡カードはよいアイデア。準備しよう。」と、自分の非常持ち出し袋を各家庭でさらに充実させることにつながっていた。



②保育所との連携

ア) 保・小合同避難訓練

地震の揺れから身を守り、ほぼ同時に避難を開始する保育所・小学校の合同避難訓練では、可能な限り小学校の教員が

園児の避難の手助けをしている。小学生も、園児に声がけをしたり、園児の手を引いたり、自分たちでできることをしながら一緒に避難するようにしている。

こうした取組は、近所で子ども同士で遊んでいる時に地震が起こることを想定し、「地域でも上級生は下の子どもを気にかけることができるように」というねらいも含まれている。訓練の最後には、保育所長さんが「もし、近所で遊んでいる時、周りに大人がいない時に地震が起きれば、小学生のみなさんが園児にも声をかけ、避難場所まで連れて行ってあげてください。」と児童に話してくださった。保育士さんの思いや願いを通して、小学校としてめざす子ども像を再確認する機会にもなっている。訓練を繰り返し、「みんなで命を守るんだ」ということを理屈ではなく、体で覚えてほしい。



イ) 読み聞かせ・避難タワー見学

5年生が総合的な学習の時間を使って、保育所との交流を実施している。来年度の6年生と1年生というつながりを見越し、数年前から継続的に取り組んでいる。

交流内容は、絵本「じしんのえほん」の読み聞かせをしたり、園児と手をつないで校区の避難タワーへ上ったりしている。保育所での取組によって、園児も

「おはしも（おさない・はしらない・しゃべらない・もどらない）」をよく理解しているようで、児童自身が互いの学習内容を確かめ合うことのできる有意義な交流となっている。

この交流を通して、園児と小学生のかわりが増え、「地域の仲間」という意識



が芽生え始めた。今後は、児童が主体となる交流活動を増やし、「上級生がリーダーシップをとり、下級生や園児が上級生に信頼を寄せる」関係づくりを工夫していくこと、企画段階から園児の状況や保育内容を踏まえた取組を進めていくことに努めたい。



③地域ぐるみ避難訓練&防災学習

平成24年度から「地域ぐるみ避難訓練&防災学習」として、大湊防災連合会等の関係機関の協力を得て、保護者や地域の方とともに防災を考える一日防災参観日を位置付けている。



【地域ぐるみ避難訓練&防災学習 案内】

午前8時30分に各地区で一斉の避難訓練を実施し、5か所の避難地区には500名を超える参加があった。子どもたちも家族と一緒に参加することにより、各家庭からの避難場所を親子で確認できる有意義な機会となっている。

午後からは、各学年の防災学習の授業参観、南国市消防署による応急手当や毛布担架づくりの学習を設定した。また、児童引き渡し訓練を行い、緊急時の現段階の学校の対応などについても理解を求めた。最後に、防災講演会として、高知工業高等専門学校 岡田将治准教授から「南海地震に備えて～家庭・地域で今からできること～」と題してお話をいただいた。講演会場には防災



グッズの展示も行った。地域の方々を含め70名を超える参加があった。

(5) 防災意識を高める

①防災カルタ

1年生は、高知県が作成した「あそぼうさいカルタ」をアレンジし、防災学習で活用している。防災学習「じしんからみをまもるには」では地震に関するカルタを、「つなみについてしろう」では津波に関するカルタを授業に取り入れた（あそぼうさいカルタをA3に拡大、読み札を平仮名に直して活用）。学びが意識として残ることをね

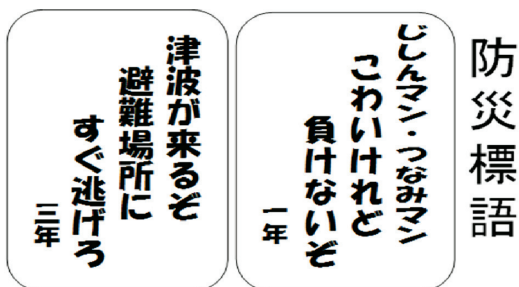


らい、授業後もカルタを教室に掲示した。

このカルタはイラストが親しみやすく分かりやすいので関心を持って取り組むことができ、防災に関する知識理解を深めるために有効であった。全校で取り組んだ「防災標語」づくりのヒントにもなった。全校集会でも、読み札の一部をクイズ形式にして、このカルタを紹介した。

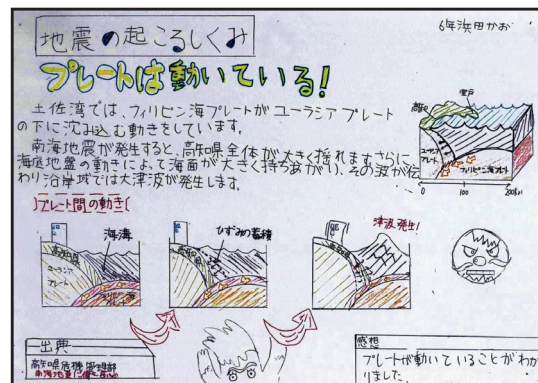
②防災標語

防災学習で学んだことを表現する場として、防災標語の募集を行った。児童は学習した防災の内容や避難訓練などを思い出しながら、防災標語を作成した。124点の応募作品の中から教職員全員で審査し、優秀作品を校舎内へ掲示した。



③防災ポスター・防災レポート

4年生は「防災ポスター」、6年生は「防災レポート」を作成し、これまでの学びを振り返ることに努めた。



【防災レポート(6年生)】

IV 成果と今後の取組

1 成果

- 地震・津波に関する学習や様々な生活場面での避難訓練を繰り返す中で、児童は災害時に「自分で判断し、行動する力」を徐々に身に付けつつある。
- 防災学習に関する教職員の意識や力量を高めることができ、防災学習カリキュラムづくりを前進させることができた。
- 地域ぐるみ避難訓練や地域を学ぶ取組の中で、地域の状況を知ることができ、地域の方々や大湊防災連合会等の関係機関との連携を深めることができた。
- 地域ぐるみ避難訓練、防災学習参観日、「わが家の防災対策」等の取組から、保護者の意識も高まってきた。

【保護者アンケート6月～11月の比較】

- 設問「地区での避難訓練に参加したことがあるか」に対し、「ある」が47%から90%と大きく増加し、「子どもとの連絡のとり方を決めているか」に対しても「決めている」が29%から63%に増加した。
- 大湊保育所と合同で避難訓練や研修会が持てたことや園児と児童のつながりを深める取組が実施できたことにより、保育所と小学校の連携が深まった。

2 今後の取組について

- より効果的、効率的な防災学習ができるように、防災学習カリキュラムの内容を検証し、見直しを進めていきたい。
- どこにいても安全に避難できるように、児童個人の避難マップづくりを進めるとともに、児童や保護者の防災意識をさらに高めていきたい。